

Sesame

open the Homedoor!

 Homedoor

ANNUAL
REPORT
2020



祝! 設立10周年

Homedoor ANNUAL REPORT 2020

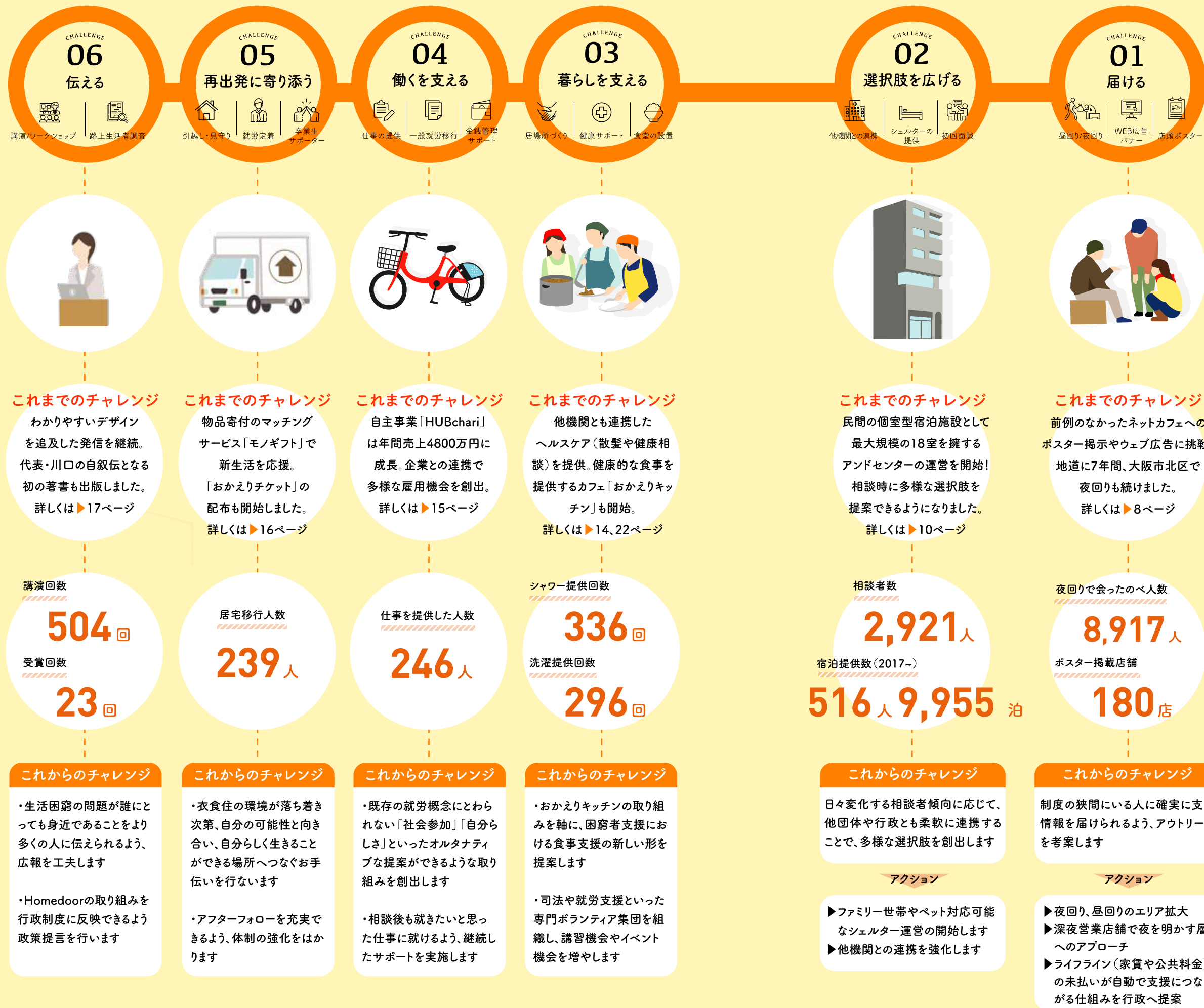
おかえりキッチン



これまでの10年、これからの10年

Homedoorでは、「6つのチャレンジ」を通じて、ホームレスの人々の路上脱出をサポートしています。どんな支援が必要とされ、かつ効果があるのか。毎年改善点を洗い出し、真に必要なサポートを生み出す、その挑戦を「6つのチャレンジ」と表現し、全国で導入できるホームレス支援のモデルケースとなることが目標です。設立10周年を迎え、これまでの実績をまとめ、これからの10年のチャレンジを発表させていただきます。

※いずれも2010年～2020年度の統計



「Stay Home & Share Smiles」寄付プロジェクトを通じて、
2020年度 Homedoor に寄付いただいたメルカリ・小泉様に話を伺いました



THE 10th ANNIVERSARY CROSS TALK

10周年 対談



株式会社メルカリ 取締役会長
株式会社鹿島アントラーズFC 代表取締役社長

小泉文明



Homedoor
Homedoor 理事長

川口加奈

聞き手

岩田真吾

三星テキスタイルグループ 代表取締役社長
Homedoor 理事

「コロナの影響はどうか？」

（小泉）
メルカリでも服とか売ってなんとかのいでいるというユーザーの声が多く集まっています。Homedoorさんが取り組む問題と地続きだと感じます。

（川口）
コロナ後、相談者数が前年比の約1.5倍となりましたが、相談者の特徴自体には、大きな変化はあまりなく、貧困の裾野が広がったというようなイメージです。特に、ネットカフェ等も休業を強いられた1回目の緊急事態宣言後はかなり逼迫しました。寄付や助成金を集める時間はないし、でも、目の前の状況を打開しなくてはいけないので八方塞がりの状況でした。そんな中、率先してメルカリ様からご寄付いただけることとなり、とても助かりました。早速、オンライン相談体制の構築や相談員の増員をさせていただきました。

（小泉）
これまで様々な社会貢献の取り組みをしてきましたが、メルカリとしては初めての寄付でした。メルカリ自体がサーキュラーエコノミー、サステナビリティに寄与できるビジネスモデルなので、社会貢献意識が高い社員がそもそも多いと思

います。なので、社会貢献はあたりまえだよねという意識でした。

（岩田）
社会貢献意識が高い社員11仕事ができるという傾向はあるんですか？

（小泉）
社会と自分の仕事をつなげられる人って、基本的にモチベーションが高いですよ。

（岩田）
130年以上続く繊維メーカーのアトツギの身としては、社会貢献はお遊びという見られ方に苦しんでいるので、メルカリさんのような成長著しい企業が社会貢献意識が高い社員が多いというのは興味深いです。



理事・岩田

（小泉）

手ざわり感のある寄付の仕組みって大事だよ。メルカリも法人アカウントの運用を開始するので、なにか活用いただける可能性があるかもです。新たな寄付体験、作っていききたいよね。

（岩田）

僕も社外理事として毎年夜回り活動といった現場に参加させてもらっているけど、地道な活動の積み重ねだからこそ、ギアをどうかけるかは重要だよ。ぜひ、小泉さんにも夜回りにきてもらって、経営相談させてもらえると助かります…。

（小泉）

大阪には縁もあるので、夜回りにも行ってみたいです！



代表・川口

これからやっていきたいことは？

（小泉）
夢だったカフェもできて、次は何をしなくていいの？

（川口）
若い相談者が増えていて、正社員雇用を目指した就労支援のあり方に限界を感じています。正社員経験がなく、非正規雇用を転々としてきたが、コロナ等で失業し、困窮状態に陥っても支えてくれる家族がいらない、後ろ盾がないという傾向にあります。正社員化がゴールではない、新たな雇用の形、新しい働き方を模索していきたいです。

（小泉）

こどもの頃の家庭環境、本当に大事なよね。あとは、フードデリバリーの配達員の

これからの寄付の形は？

（川口）
「ありがたの循環」が生まれる働き方の設計、ご寄付の設計を考えていきたいですよ。

（小泉）
僕らのところでも、運送会社の集荷場に、最終消費者であるお客様がメルカリの商品発送の持ち込みに来られるようになり集荷場が活気づいたという事例もあります。

（川口）
コロナの影響で取材の機会も増え、新たにHomedoorのことを知ってご寄付いただくこともあり、とても助かった一年でした。と同時に、少しの寄付で最大級の効果を発揮できるよう、ギアをかけていけるかどうかは私たちの腕次第なので、プレッシャーを感じています。あとは、amazonのウィッシュリストを通じてHomedoorが必要としている物品をリストから購入いただくという寄付も増えています。

amazon
ウィッシュリスト



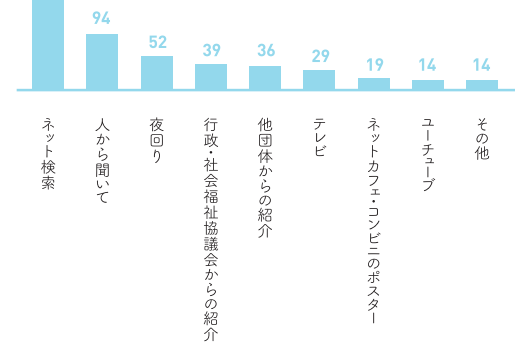
小泉さん

データで振り返る2020年度

Homedoorを知ったきっかけ(N=927)

630

2020年度のネット検索数は前年度の約1.5倍となりました。



夜回りで出会ったのべ人数

1,343人

冬期(11月～2月)は月2回、それ以外は月1回夜回りを実施しています。毎回85食のお弁当を用意し、飲み物やマスク「ホームパト通信」というメッセージカードも添えます。大阪市北区を4つのコースに分かれ、お渡ししています。



夜回りで配布しているお弁当

株式会社フォーシックスさまより、夜回りと生活相談会の際にはお弁当を寄付いただいています。このお弁当は「コロナ禍に苦しむ方々に、利他の精神を忘れない“てつたろう”の栄養満点のお弁当を届けたい!」というクラウドファンディングにて集まったお持ちが原資となっています。2020年度はコロナ禍でお弁当を法人で手づくりしにくい環境だったので、非常に助かりました。ボリュームがあり、美味しいと評判です。



現場のリアルボイス

VOICE

夜回りで出会ったことは
忘れることができない



7年間夜回りで会っていた
松山さん(70代)

8年くらい前から野宿をしていて、Homedoorの夜回りにはずっと会ってきました。野宿をしていると寢床はなんとかできても衣と食はどうにもできない。だからお弁当を届けてもらえて本当にありがたかった。毎月出会えることが生きる喜びでした。感謝しかありません。ここ一年で体力が低下し入院することになり、以前から考えてはいたけれどよりいっそう家を借りようかなという気持ちになってきました。家探しのサポートをもらって、家を借りることができるように。ゆっくり寝られて、人目を気にせず生活できることは本当に快適です。万博や新しい催しを見たいという思いがあるので、1日でも長く生きていきたいと思っています。

VOICE

洗濯機の利用や食事ができることは
本当に助かります

2017年から関わっている
遠藤さん(30代)

4年ほど前にネット検索でHomedoorのことを見つけて一度来所しました。その時に夜回りが大阪市内で行われていることを知り、その後お弁当をよくもらっています。他の炊き出しなどにもいくつかありますが、Homedoorのお弁当は栄養バランスが考えられています。味も衛生面でもとても質が高いなと思っています。学生時代の奨学金返済が続いているので、生活が安定しないのでとても助かっています。

VOICE

ただ手を差し伸べるだけでなく
その人に合った方法で支援してくれる場所

ネット検索で来所した
石田さん(20代)

1年前、東海地方にいた時に生活に困ってメールで相談しました。他の団体にも連絡をしましたが、「まずは来てください」と言われました。それに対してHomedoorでは現状を丁寧に聞いてくれました。それを思い出して今回1年ぶりにメールを送り、来所に至りました。来てすぐはどうやってこれから生計を立てていこうかと不安でしたが、いろんな人が気にかけて話しかけてくれて、みんなでつづっていく擬似的な家族のような場所だなと思いました。



夜回りの様子。2020年度よりコロナ感染症対策でマスクなどの衛生用品の配布も行なっています。

お弁当つき相談会で
来所率が向上

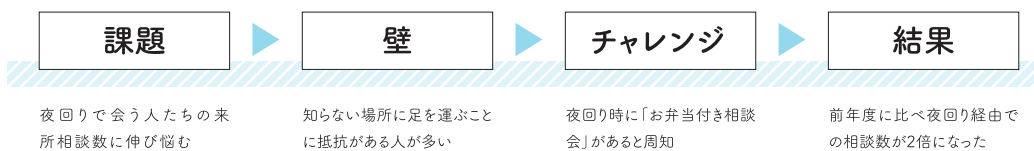
2013年から夜回りを実施していますが、来所相談に至る人の数は伸び悩んでいました。知らない場所には行きづらいという人も多いため、来所のハードルを下げるべく、2020年度は新たな取り組みとしてお弁当付きの相談会を実施しました。夜回り時に「夜回りの2日後にお弁当を事務所でお配りする相談会をやります。」とアナウンスすることで、来所者数が増えました。一度来所をしてもらうことで、その後の相談にもつながりやすくなったと実感しています。

※お弁当は「株式会社フォーシックス」さまよりご提供いただきました。フォーシックスの柳川社長からのコメントはP18に掲載しております。

YouTubeやテレビなど
新たな「きっかけ」が広がる

2019年度同様、全体の7割弱がネット検索をきっかけに来所されました。スマートフォンやフリーWi-Fiの普及により、電話がすでに止まっている人たちからの相談が15%を占めました。また、2020年度に顕著だったのがYouTubeやテレビを見ての相談でした。報道番組で取り上げられた20分ほどの特集がYouTubeで配信され、約200万回再生されています。多様な発信媒体を持つことで相談の裾野を広げられたなと感じた一年でした。

【2020年のCHALLENGE】



CHALLENGE

01

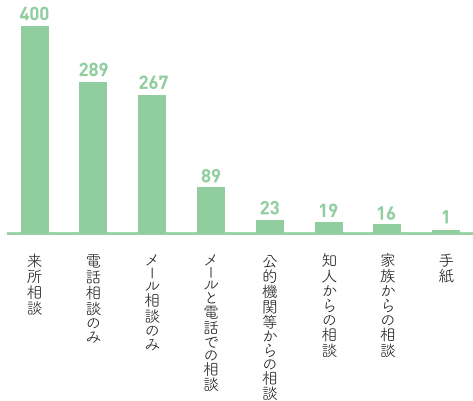
届ける



データで振り返る2020年度

相談の経路(N=1104)

メールや電話での相談が全体の58%を占める結果となりました。来所には至らず自治体の窓口や支援機関につながることで必要な支援につながるケースも多かったです。

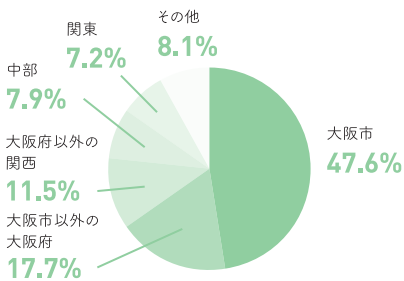


年間の相談者数

相談者は年々増加しており、2020年度は1,000人を超えました。

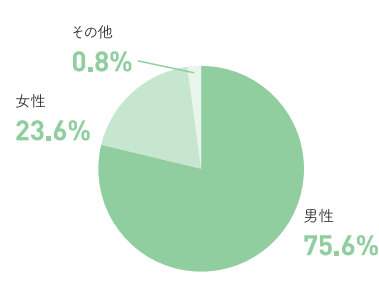


相談時の居所(不明を除くN=1039)



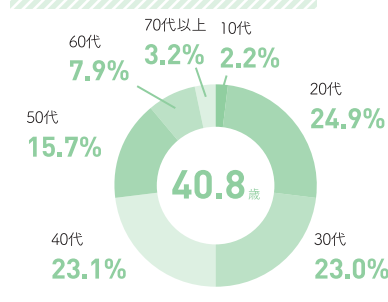
Homedoorの所在地である大阪市内と大阪府下からの相談が65%を占めます。関西以外からの相談も全体の約20%あります。SEO対策に力を入れた結果、生活困窮状態の人がネット検索をした際にHomedoorがヒットしやすくなり、日本全国各地さまざまな場所からの相談があります。

相談者の性別(不明を除くN=1100)



相談者数は前年度のおよそ1.5倍となりましたが、性別に関する割合はほぼ同じでした。

相談者の平均年齢(不明を除くN=752)



前年度と比べ平均年齢に大きな変化はありませんでした。相談者の約半数が30代以下となり、若年化が進んでいます。

現場のリアルボイス

VOICE

薬にもすがる思いで相談をした



居宅生活開始から3ヶ月経つ

池田さん (20代)

家を出ないといけなくなり、インターネットカフェで1週間ほど生活をしていて、「強制退去 その後」と調べたらHomedoorが出てきました。もともとうつ病があり、死のうかどうか悩んでいたけど、ダメ元で相談。今後どうしたらいいかをアドバイスしてもらえたらと思い相談に行ったら、その日から個室で泊まることができ、驚きました。不動産まで紹介してもらえるとは思っていなかったです。2週間ほど宿泊している間に、過去の宿泊者の人が遊びに来ていて声をかけてくれ、ここで話をしてもいいんだと思え、そのあと年齢の近い相談者と仲良くなることができました。相談できていなかったら、飛び降りていたかもしれない。それくらいうつ病がひどかったです。今は公的制度を活用して、自分名義の家を借りて、週に1回程度通院をしながら生活のリズムを整えているところです。

VOICE

自暴自棄になりかけていたけどもう一回頑張ってみようと思った

遠方から相談にこられた

小野さん (50代)

住み込みの寮を出ないといけなくなり、知り合いに相談をしたところ、Homedoorを紹介されました。当時中部地方にいましたが、慣れ親しんだ地元の大阪に行きたいという思いもあり、一か八かで来阪。優しく対応していただき、アンドセンターにも宿泊でき快適でした。過去に中部地方で生活保護の申請を自分でしたときに、申請が通らなかったことがトラウマになっていましたが、今回は家を借りることもでき、申請が無事通りほっとしています。今は仕事探しをしつつ生活を立て直している最中です。

VOICE

正直、死ぬ覚悟もしていました

長らく運転の仕事をしていましたがコロナで収入が減り退職。親族とのトラブルも重なり、自暴自棄になっていました。ネット検索でHomedoorを見つけ、半分諦めの気持ちもありながら相談をしました。正直、死ぬ覚悟もしていましたが相談員の方に「一回落ち着いて生活を立て直しましょう」と言われ、救われました。これからについて考える時間をもらえ、今まで自分ひとりでなんとかすると思いながら生きてきたけれど、他人にも頼っていいと気づけました。

アンドセンターを利用された

安田さん (40代)

相談者が語る“先の見通し”
が立つ安心感

相談者がアンドセンターから居宅生活などに移行される際、「ふりかえり面談」を実施しています。「アンドセンターを利用して変わったことはありますか？」という質問に対しては多くの方が「ここに来る前は『今日をどうやって生きよう』と途方に暮れていましたが、相談に来たその日のうちから個室に入れて、家探しなどのスケジュールを示してもらえるので「先の見通しが立った」という安心感が大きく、身も心も軽くなりました」と答えてくれます。この「先の見通し」という言葉は驚くほど共通しており、当面の衣食住を気にすることなく今後について考える環境を確保することの意義を改めて感じています。今後も、相談者が安心して先の見通しを立てられる支援を心がけていきます。

実は多い
「家がある」人からの相談

2020年度の相談者のうち、家があると回答した人は全体の56%を占めました。住居がない人ばかりではなく、住居を失う恐れのある人からの相談が増加しています。これはコロナの影響やシフト制の労働などによる収入の不安定さに起因するものだと考えられます。収入が安定しない人には、公的制度の案内を行い、生活再建の道を一緒に考えていきます。相談者の多くは、自分の力でなんとか生活維持をしようとしてこられており、「制度を知らなかった」「働いている自分は使えないと思っていた」などの声を多くいただきます。公的制度の周知にも力を入れていきます。

【 2020年の CHALLENGE 】

課題

コロナの影響で生活に困窮する人が増加し、すべての相談を受け入れることができるか、不安があった

壁

相談員の不足、アンドセンターが18人までしか受け入れられないなどキャパシティの問題が発生

チャレンジ

相談員の採用の強化や相談ボランティア養成講座の開講、生活に困った人がホテルを利用できるよう助成金を申請した

結果

新規で4人の相談員の採用ができ、相談ボランティアが12人増員。緊急時にホテルの利用ができるようになった



初回面談



シェルターの提供



他機関との連携

CHALLENGE

02

選択肢を広げる



相談の様子。個室でこれまでの生活状況を聞き、それぞれに合った選択肢を提示しています。(※撮影のためマスクを外しています)

アンドセンター

「ほっと安堵できるように」
と願いを込めて名付けました



「どんな状況に陥ったとしても
あそこに行けばなんとなる」
そんな場所を夢見て、
代表が高校生の頃に描いた
1枚の施設の絵がもととなり、
2018年にアンドセンターが誕生しました。



3-5F



ベッド、テレビ、冷暖房、冷蔵庫、シャワー完備の
個室が18部屋

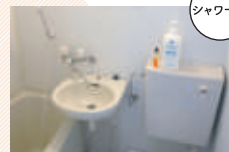
宿泊セットもお渡しします



冷蔵庫や電子レンジを
自由に使えます



プライバシーの保てる空間で
生活の相談ができます



宿泊者以外にも利用できる
シャワーだけの部屋もあります



行政機関や連携企業との
面会などを行います

2F



おしゃべりしたり、パソコンで調べ物したり
思い思いの時間を過ごせます

1F

生活の相談ができ、個室で泊まれる

アンドセンター

データで見るアンドセンター

宿泊者（2020年4月～2021年3月）

249人 3876泊

平均宿泊日数(N=225) 13.5日

宿泊後の経過

居宅で生活保護を利用	60人
支援施設に入所	31人
－行政施設に入所	26人
－民間の支援施設に入所	5人
就労での自立	97人
－自身で居宅と仕事を確保	15人
－自身で寮付きの仕事を確保	21人
－Homedoorからの紹介で寮付きの仕事を確保	61人
家族/知人宅に移動	11人
一時生活支援事業（※注）	14人
その他	36人
合計	249人

※注 一時生活支援事業：住居がない方や、ネットカフェ、漫画喫茶などで生活しているなど、住む場所が不安定な状況の方に対して、一定期間宿泊場所や衣食の提供を行う行政の事業です。大阪府の市町村より依頼があった場合対応しています。

相談の流れ

初回面談

電話・メールでの相談があった場合、すみやかに返事を行います。現在地が関西以外の人へは他の支援団体や市町村の窓口を案内します。来所での相談は、相談票を記入してもらい、初回面談を専門の相談員とプライバシーが保てる個室の相談室で行います。「緊急一時宿泊」「公的制度の活用」「Homedoorでの就労提供」「協力企業への就職先紹介」「衣服や食事の提供」「他機関の紹介」など複数の選択肢を提示し、本人の希望を最大限尊重します。



施設の利用

アンドセンターでの宿泊は2週間まで無料です。ユニットバス付きの個室でゆっくりと心と体を落ち着かせ、今後や自分のこれからを見つめ直す時間を取ってもらいます。宿泊をしていない人も利用可能なシャワー室や洗濯機、団らんスペース、キッチン、Wi-Fiブース、図書コーナーなどを併設しています。過去に相談にやってきた人が遊びに来てくれることも多く、アンドセンターはいつも賑やかです。



方針の決定

宿泊中に今後の方針を決めてもらいます。Homedoorで働きはじめたり、必要に応じて不動産会社や協力企業との引き合わせを行ったりしています。アンドセンターを出発される日には、電気ケトルや炊飯器、食品などその人の生活に必要なものを詰め合わせた新生活応援キットを、ささやかながら新たな門出のお祝いとしてプレゼントしています。





HUBchariの稼働率が上がり、2020年度はバッテリー交換の業務を希望する人が増えました。



団らんスペースの様子。談笑したり、読書したり、コーヒーを飲んだり、思い思いの時間を過ごせます。

[2020年の CHALLENGE]

課題	壁	チャレンジ	結果
緊急事態宣言などがあり、団らんスペースの閉鎖、イベントの中止をせざるを得なかった	団らんスペースは密になりやすく、これまでの季節のイベントは飲食を伴う物が多かった	感染対策を行い、生活相談や食料の持ち帰りはこれまで通り継続実施した	食料を取りに来所される方は少なく、団らんスペースのニーズを改めて感じた

団らんでできる場所の 意味を問い直す1年

アンドセンタ―は日曜日以外、毎日団らんスペースや洗濯機、シャワールームなどの利用ができるよう開放してきました。しかしながら、緊急事態宣言の発令を受けて団らんスペースを一時閉鎖せざるを得なくなりました。野宿をしている人や定住できる場所がない人にとって、安心して過ごせる場所は多くありません。「まだここで休憩したらあかんの?」と聞いてこられたり、宣言解除後、「久しぶり」と声を掛け合う人たちの様子を見ていると、改めて誰もが自由に団らんでできる場所の重要性を感じました。



大田さん (20代)

生活支援メニュー



シャワールーム



ランドリー



マスクなど
衛生用品の提供



居場所づくり

健康サポート

食堂の設置

VOICE

ここは母校や実家みたいな場所

2、3年前にHomedoorのことをネットで調べていました。ネットカフェ暮らしも行き詰まり、いよいよ生活が苦しくなってきたという時に相談に来ました。普通に寝泊りできる生活に戻りたかったという気持ちが強かったです。今は家を借りることができて、久しぶりに穏やかに寝られるようになりました。Homedoorに今でも足を運ぶのは、母校に遊びに行く感じや実家に帰る気持ちに似ているかも。家にひとりでのより、誰かと過ごせるほうがいいなと思っています。

CHALLENGE

03

暮らしを支える

CHALLENGE

04

働くを支える

[2020年の CHALLENGE]

課題
所持金が少ない状態で相談に来た人が、アンドセンター滞在中にできる仕事なかった
壁
企業からの仕事の場合、納期や勤務日が固定されていることが多く、ニーズと合致しなかった
チャレンジ
HUBchariのバッテリー交換や自転車再配置トラックの横乗り業務を新たにつくった
結果
一時的な仕事の提供ができるようになり、相談者から好評を得た

「働く」をより フレキシブルに

「携帯電話がない」「住所がない」「身分証がない」仕事が見つからない人たちの多くは、この3つの「壁」に悩まされています。仕事を探す際に、これらを持っていない人たちは就職することができず、収入がない時期が続いてしまいます。Homedoorではこの負のスパイラルを打開するために、HUBchariをはじめ家を持たない人たちでもできる仕事づくりを2012年から進めてきました。2020年度はHUBchariの利用数が大きく増えたこともあり、新たにバッテリーの交換業務やトラックでの再配置の際の補助業務などが生まれました。これにより短期間や一回限りの仕事を提供でき、手元にお金の少ない相談者のニーズとマッチし円滑な相談対応や仕事の提供を行えるようになりました。



仕事の提供

一般就労移行

金銭管理
サポート

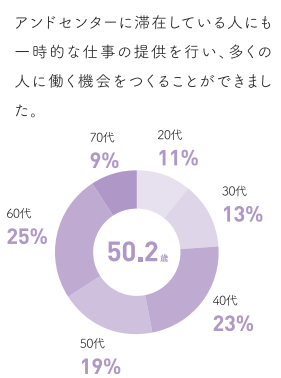
VOICE

運転免許の回復に向けて 頑張りたい

夜回りチラシで来所した
川村さん (50代)

春ごろに公園で寝泊りしていて、朝起きたらお弁当が置いてありました。入っていたチラシに単発の仕事の紹介が載っていて、少しでもお金になるならと思い、すぐHomedoorの事務所に行きました。HUBchariのバッテリー交換の仕事もあると知り、今はその業務もしています。おかげで自分で食べたいものを食べられるようになりました。今は失効してしまった運転免許の回復に向けて、貯金を少しずつ進めているところです。

就労した人の平均年齢(N=52)



提供した仕事の数

民間からの新規業務やHUBchari関連の業務が増え、時間が固定されない働き方を提案できるようになりました。

7種類



2020年度のオンライン年次報告会の様子。全国からの参加がありました。

コロナ禍で共感の輪は加速

「ホームレス問題は自己責任」と考える人はこれまで少なくありませんでしたが、コロナ禍でその認識は大きく変化したのではないのでしょうか。テレビや新聞などメディアでも連日「コロナと貧困」などのテーマが取り上げられるようになり、身近な社会課題として扱われるようになってきました。実際、当法人においては寄付者数や企業からの問い合わせは例年に比べ大きく増加しました。生活困窮に陥ることは、自助努力の問題とはいき切れません。誰もが公的制度によるサポートを受けることができ、非難されることがない社会づくりを目指し、Homedoorは「伝える」活動を続けてまいります。



講演/ワークショップ



路上生活者調査

講演

ほとんどがオンライン開催でしたが、学生から社会人まで幅広い世代の人にホームレス問題について考えていただく機会をつくることができました。



講演回数

30回

クラウドファンディング

ホームレスの人たちと写真集をつくるためにクラウドファンディングを実施しました。500人以上の人たちがこのプロジェクトに参加してくれ、多くの人にホームレス問題を「伝える」ことができました。(詳細はP19をご参照ください)



参加者数

506人

Youtubeの特集動画

テレビで放送された特集「新型コロナの影響で初めてホームレスに…2人の選択」が、YouTubeの「読売テレビニュース」チャンネルに掲載され、200万回以上再生され、大きな反響を呼んでいます。多くの人にホームレス問題の現状とHomedoorの取り組みを知っていただく機会となりました。



ほか他数

2020年度の主なメディア出演

2020年4月	関西テレビ「よ〜いドン となりの人間国宝」 毎日新聞「ベンチや地下通路 マスク郵送難い路上生活者に配布 大阪のNPOに同行」
2020年5月	NHKワールド「RISING」
2020年8月	読売新聞「コロナ禍と社会的弱者」
2020年11月	NHK「ニュースほっと関西」
2020年12月	MBS「ミント」
2021年2月	日経新聞「梅田一職場はシェア自転車で コロナ下、1年で利用2倍に」
2021年3月	フジテレビ「セブンルール」

CHALLENGE

06

伝える



2020年に相談にこれられ、アンドセンターを経由して居宅を借りられた堀行さんのご自宅(下記VOICE参照)。

【2020年のCHALLENGE】

課題

生活保護を利用して居宅設定をする場合、生活保護の利用開始までのおよそ2週間の生活がままならない人が多かった

壁

収入がない状態で相談に来ているので食費や生活費にかかるお金がない

チャレンジ

電子レンジや炊飯器、食品など生活に必要なものを詰めた新生活応援キット(1万円相当)を新たに提供開始した

結果

居宅移行がスムーズにできるようになり、「新生活が快適になった」との声をいただいた

VOICE

これからもHomedoorとは
切っても切れない関係でいたい

堀行さん(70代)

「やりなおし」を企業が後押し

2020年度に顕著だったのが、企業からの求人才フェアと不動産の紹介でした。テレビなどのメディアを見た企業の皆さまが「ぜひ生活に困っている人にも求人を紹介したい」など連絡をしてきてくれました。生活再建を願う人たちにとって、理解ある仕事先の存在や安心して住める住居の確保はとても大きいものです。どれだけ本人が今の状況を改善したいと努力をしても、周囲の人たちが状況を理解してくれなければ、その努力は水の泡になります。再出発を心に決めた人たちが心地よくスタートを切れる環境をつくるために今後も企業求人の開拓や不動産会社との連携強化を行なっていきます。



引越し・見守り



就労定着



卒業生
サポーター

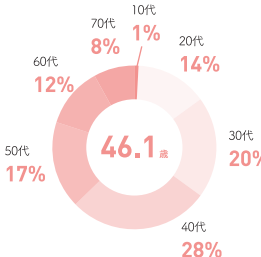
卒業生の夜回り参加者数

自分もお弁当を受け取ったことがあるからと、卒業後に夜回りに関わってくれる人が多くいます。

54人

居宅移行した人の平均年齢(N=91)

2020年度、Homedoorでおうち探しを手伝った人数は、91人でした。



相談者へのサポート内容

再度困窮しないように様々なサポートをしています。

- ・不動産の紹介
- ・就労先の紹介
- ・新生活応援キットの提供(布団、炊飯器、電子レンジ、食器、食品など)
- ・住民票の取り寄せ/設定
- ・年金の受け取り手続き
- ・生活保護申請のサポート
- ・居宅移行後の生活相談
- ・おかえりチケットの配布(詳細はP23)



CHALLENGE

05

再出発に寄り添う



HOMEDOOR NEWS

1 HUBchari利用者、急増中！

ホームレスの人の特技を生かした就労支援として2012年に開始したシェアサイクル事業HUBchari。2016年より株式会社ドコモ・バイクシェアさまと連携し、なんと大阪府内280以上のポートで利用いただけるようになりました。2020年度はコロナの影響で電車での移動を避ける人が多く、HUBchariの利用が前年度2.2倍まで急増しました。相談者やアンドセンター宿泊者が増え支出も増えましたが、HUBchariの事業収益も増え、コロナ禍でも団体の歩みを止めることなく活動が続けることができました。大阪にお越しの際は、ぜひ移動に便利なHUBchariをご利用ください。

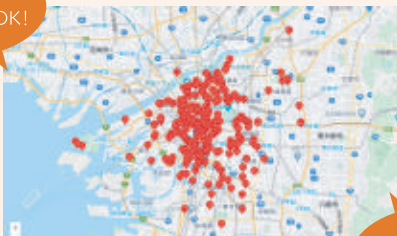


HUBchari

www.hubchari.com

HUBchari MAP

どこで借りて
どこで返してもOK!



会員登録すれば大阪府内にある
280以上のポートが24時間利用可能！

日常づかいにも
オススメです

2 クラウドファンディングを実施しました！

2021年3月～5月に「カメラマンはホームレスのおっちゃんたち！写真集出版で支援の輪を広げたい。」のクラウドファンディングを行いました。2016年から実施してきた「Snapshot taken by Homeless.」というホームレス状態の人たちに日常風景や好きなものを撮影してもらい、それらをインターネット上の特設サイトで掲載・販売するという取り組みの集大成として今回の写真集出版を行うことといたしました。目標金額450万円を超える600万円が集まり、多くの関心を寄せていただいたことを心より嬉しく思います。2022年の完成を目指し、出版社のライツ社さまやボランティアメンバーと作成を進めています。



Snapshot
taken by
Homeless.



www.homedoor.org/snapshot/

3 企業連携で、新たな仕事を開拓

2020年夏より南海電気鉄道株式会社さまの実施する新規事業・傘のシェアシステム「チョイカサ」にて傘の再配置や修繕の業務をHomedoorが行っております。HUBchari同様、シェアシステムを活用した不安定居住層の人たちの新たな仕事をつくれたことをとても嬉しく思います。今後も企業との連携を強化し、積極的に仕事づくりをして参りたいと考えています。



多くの個人・企業の皆様にHomedoorは支えられています！



Special sponsor

株式会社セールスフォース・ドットコム



アート引越センター
アートコーポレーション
株式会社



アートプランニング
株式会社



イトマン株式会社



大和リース株式会社



chatwork
Chatwork株式会社



dentsu
tokyo/osaka/nagoya

株式会社電通



株式会社
ドコモ・バイクシェア



南海電気鉄道株式会社



不二熱学工業株式会社



株式会社フレスコ



ベアーズ



株式会社ベストバイ



株式会社ペライチ



ホーユー株式会社



社会福祉法人丸紅基金



御堂筋の会
Murotsu no Kai
私たちは、ミナミ御堂筋の街通企業体です。

ミナミ御堂筋の会



MUTONA
ムトナ株式会社



株式会社メルカリ



ライツ社
株式会社ライツ社



ロート製薬かるがも基金

(敬称略・五十音順)

VOICE

多様な協働や共生を実践する
コアのような存在



サポーター

京都産業大学
准教授

松尾智晶さん

VOICE

少しでも地元・大阪の
力になれるように



企業の声

ロート製薬株式会社
かるがも基金事務局

奈良朱里さん

VOICE

大切なのは「人のぬくもり」
と学びました



企業の声

株式会社フォーシックス
てつたろう 代表

柳川誉之さん

「社会の仕組みがとりこぼしてしまう人の
キャリア形成」が私の強い関心事です。

突然に複数の問題が重なり急速に困窮しても、制度活用や他者との関わりを選べない・選ばない方もおられます。他人事でなく、私たちにも起こり得ることです。個人の生き方を尊重し「何度でもやり直し」できる社会づくりを目指されるHomedoorは、多様な人たちがゆるやかに関わり協働・共生を実践するコアのような存在です。

誰もが安心して生きられる社会の一隅を照らす皆様を、心から応援しております。

理事の松本さんと関わりのある社員からの紹介で、Homedoorさんを知りました。

コロナ禍のネットカフェ閉鎖や失業で支援を求める方が倍増している現状もお聞きし、ロート製薬の地元・大阪に対して少しでもお力になれば、という思いも重なってご寄付をさせていただきました。

Homedoorさんの活動内容を社内でも発信することで、ホームレス状態にある方に対する理解や支援の必要性を知る大切な機会にもなっていると感じます。

「あなたのような考えの会社で、うちのおっちゃんを働かせて欲しい。」

これがHomedoorとの出会いでした。川口理事長はもちろん、松本さんをはじめとするスタッフの皆さんがおっちゃん達のことを真剣に考える姿勢に、日々感動しています。

現在は夜回り等で弁当の提供をさせて頂いておりますが、大切なのは「人のぬくもり」と学びました。ひとりひとりが「またチャレンジ出来るんだ!」と思えるようになる活動を、これからも応援しています。

民間のアイデアで乗り越える 生活保護の申請を阻む「壁」



生活に困った時、誰にとっても使いやすい制度であることが、“最後のセーフティネット”である生活保護制度には求められます。しかし、生活保護基準を下回る経済状態の世帯のうち、生活保護を利用している割合は2割に満たないことなどが指摘されています。その背景には、役所の窓口が申請自体をなかなか受け付けない「水際作戦」とよばれる問題や、生活保護の利用者に対する社会的な風当たりが強いことなどがあります。

こうした課題に対し、困窮者支援に取り組む全国の各団体が行政に声を上げて行くことで、少しずつあるべきセーフティネットの姿に近づいています。今回の特集では、生活保護申請において大きな動きとなった「扶養照会」「オンライン申請」と、コロナ禍における各団体の連携についてご紹介します。

ウェブサービスですすむ 「オンライン申請」

オンライン申請

相談者数の増加にともない生活保護の申請同行を希望される方も増えてきましたが、全ての希望者に同行をすることは体制上難しいのが現状です。そこで、2020年度から生活保護の申請書を相談員が作成し、福祉事務所にファクスで送信するという申請サポートを開始。Homedoorから予め申請書を送ることで、従来から問題となっていた「申請に行ったのに受理してもらえなかった」という事態を防ぐことができるうえ、遠方からの申請相談にも対応できるなど、サポートの幅が広がりました。最近では、ネット上で申請書を福祉事務所にファクスできるウェブサービスも支援団体がリリースしており、事実上の「オンライン申請」が進みつつあります。

「家族に知られたくない」 扶養照会が変わる？

扶養照会

役所から親族へ「申請者の援助をできないか」を問う封書が送られる「扶養照会」は、親族に自分の状況を知られたくない相談者が申請を躊躇する要因となってきました。こうした問題はコロナ禍での困窮者支援に取り組む団体や市民からの指摘をうけて国会でもとりあげられ、2021年3月、厚労省は、本人が扶養照会を拒む場合には事情を丁寧に聞き取るべきとする方針を示しました。こうした動きもうけて、支援団体が扶養照会をしないしてほしいという申出書を作成。ネットで誰でもダウンロードできるようになっており、意思表示をスムーズに行えるようになりました。

新たなチャレンジ

困窮者が爆発的に増えても対応できるようにと、他団体との連携を強化しました

2020年4月より大阪市内の20以上の団体が集まり「新型コロナ 住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA」が立ち上がり、Homedoorも相談会の実施や広報協力を行いました。生活に困っている人たちへ適切な情報を届けること、宿泊を希望する人に場所を提供することができました。また住居喪失状態にある人へ賃貸住宅の初期費用や生活物資・家具などの費用を助成するNPO法人ビッグイシュー基金実施の「おうちをあなたにーコロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」（略称：おうちプロジェクト）」にも参加し、Homedoorに相談のあった27人の居宅確保のサポートをいただきました。

VOICE

相談した即日から驚くほど迅速に
対応していただきました

「とにかく不安で」と連絡くださった
田中さん（30代女性）

接客業で生計を立てていたのですが、緊急事態宣言の影響で収入が大幅に減ってしまいました。持病もあり転職活動も思うようにできなかったため生活保護を考えたのですが、親に連絡がいくことが不安で身動きがとれずにいました。いよいよ家賃が払えなくなるというタイミングで、ある支援団体からHomedoorのことを紹介してもらいました。すぐにスタッフの方に話を聞いてもらい、生活保護の申請にも同行してもらいました。親族に連絡がいくと困る理由を、専門的な知識をもとに説明してもらえたのがとても助かりました。相談した即日から驚くほど迅速に対応していただき、見通しをはっきりと示してもらえたのが心強かったです。

住まいがない人への 新型コロナの影響とは



すべての人にとって大きな脅威となった新型コロナウィルス感染症。2020年度に入り、Homedoorにも「飲食関係の仕事をしていたのですが、緊急事態宣言の影響で店が閉まってしまいました」「職場で感染者が出てしまい、業務がストップし、仕事なくなりました」など様々な相談が寄せられています。

収入が少なくなった人の家賃が一時的に支給される「住居確保給付金」や、休業や失業等により生活資金に困っている人への貸付制度である「緊急小口資金」「総合支援資金」などを活用してもなお生活の維持や立て直しが難しい人が多くいます。

生活の見通しが立たないことは精神的にも大きなストレスとなります。「こんな状況になったことがなくて」と困り果てている人たちに、適切な社会福祉制度や利用できる民間のサービスをお届けできるように今後も活動の幅を広げてまいります。

今回の特集では、コロナの影響から見えてきた2つのトピック「特別定額給付金」「ワクチン」について、解説します。

「副反応は死活問題」 という声

ワクチン

大阪市ではホームレスの人もコロナのワクチン接種を受けられるよう、接種までの流れを説明したチラシを行政担当者が配布しています。Homedoorでは、2021年7月の夜回りの際に改めて情報提供を行うとともに、ワクチン接種の意向について簡易ヒアリングを実施。その結果、お話を伺えた63人の路上生活者のうち、チラシをもらっている割合は2割と周知が不足していることが判明しました。また、「接種したくない」と答えたある当事者からは「空き缶拾いでその日の食費を稼いでるわけだから、副反応が出て数日動けないというのは死活問題なんです」と話されました。誰もが安心してワクチン接種を受けられるよう、副反応が出た際にアンドセンターへの臨時宿泊を提供することにしました。

住民登録が前提となった 特別定額給付金

特別定額給付金

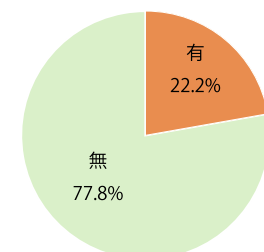
2020年4月、住民基本台帳に記録されている者へ10万円が給付されることとなった特別定額給付金。住民登録がされていないホームレスの人をはじめとする居住不安定層は、どこかに登録しないと給付できない状況となりました。そこで、各支援団体が声を上げたことで、今回だけ特別に、居住実態がない場所への住民登録が可能となりました。Homedoorではアンドセンターへの一時的な住民登録による給付を告知。合計7名の方が、給付されることとなりました。また、波及効果として住民登録ができたことで、身分証やキャッシュカードの再発行や年金の受給もでき、これをきっかけに家を借りた方が4人いました。

路上生活者に対する コロナワクチン意識調査

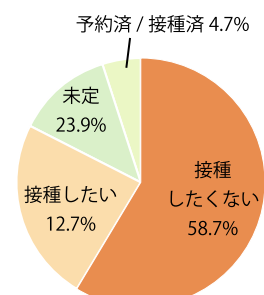
ホームレスの人たちがコロナウィルスのワクチンについてどのような意識を持っているかを以下の通り調査いたしました。

調査日 2021年7月13日(火)20時30分~23時
方法 面接法（お弁当を渡す際）
対象 Homedoorの夜回り4コース（天六、梅田、大川、西梅田）で出会った路上生活者のうち回答が得られた63人

接種券の有無(N=63)



接種の意向(N=63)





「ほかほかなごはん、ほくほくなココロ」というコンセプトのもと、アンドセンターの利用者や地域の人たちを「おかえり」と迎えることができるカフェを目指しています。素朴な味わいを目指した「おかえりキッチンプレート」（左写真）が一番人気！他にも、ケーキセットやホットサンド、ハンドドリップコーヒーやラテもご用意しています。

VOICE

生活を立て直したら、また挨拶に来たい

「すぐるような気持ち」で
アンドセンターに来られた
山田さん（50代）

おしゃれなお店で料理もとってもおいしく、量もちょうど良かったです。特に、ポトフやバナナスムージーがおいしかったです。コロナ対策もしっかりされ、カウンターの衛立（ついたて）も圧迫感がなく、おかえりキッチンという名前の通り、とても居心地が良い落ち着いた雰囲気でした。生活を立て直してまた挨拶に来ます。本当にありがとうございました



アンドセンター宿泊者に提供するまかない



おかえりチケット

「チャレンジ 05 再出発に寄り添う」の新しい取り組みとして、「おかえりチケット」の配布を始めました。相談してから、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年、2年といった節目にこのチケットを持って来てもらうと、無料でランチを食べられるというもの。ランチとあわせて、近況や困りごとを気軽に相談してもらえるような環境づくりを行っています。

500人キャンペーン実施中！

現在、おかえりキッチンの運営を支えてくださる「おかえりサポーター」500名を募集中です。応援、お願いいたします。おかえりキッチン特設サイト（右QRコード）
<http://www.okaerikitchen.homedoor.org/>



Instagram開設

おかえりキッチンでは、Instagramを開設し、店内の紹介や本日のランチのご案内をしています。お気軽にフォローしてください♪ ▶ ID: okaerikitchen



Homedoor 設立 10 周年を記念して始まったプロジェクト「おかえりキッチン」。アンドセンターの利用者がランチを食べたり、就労を体験したりできるカフェとして 2021 年 6 月 1 日にオープンしました。オープンにあたっては、株式会社セールスフォース・ドットコム様より多大なるご支援を賜りました。

代表・川口の夢だった、おかえりキッチン

18歳の時、親しくなったホームレスの人の路上死という現実と直面した私は、「とりあえず、あそこに行けばなんとかなる」そんな場を作ろうと、施設の間取り図を描きました。それから 10 年。多くのサポーター様に支えられ、2018 年にアンドセンターを開所でき、その後も少しずつ、この間取り図に描いた機能（宿泊、就労、団らん等）を実現してきました。



しかし、最大の壁となったのが食堂機能。アンドセンターには、食堂をつくるスペースの余裕はなく、宿泊者には 2 週間、カップ麺を提供するしかありませんでした。ただやっぱり思ったのは、しんどい時こそ、最高のおもてなしをしたいということ。もう一度がんばろう、そんな活力の湧く、食事を提供したいとアンドセンターの隣の物件を改装し、おかえりキッチンをオープンすることができました。（理事長・川口加奈）

サポーター企業の声



株式会社セールスフォース・ドットコム
専務執行役員
公共営業本部
韓国リージョン統括 兼
ビジネスオペレーション担当
伊藤 孝様

1 年ほど前、外部のセミナーで川口様のお話をうかがい、大変感動したのが Homedoor さんとの出会いでした。その後、社内での講演会を開催いただき多くの社員が感銘を受けました。コロナの環境下においてご支援できる活動も限られている中、今回「おかえりキッチン」のオープンのお手伝いをさせていただいたことを嬉しく思います。今後も Homedoor さんの活動を応援していきます。

NEW OPEN !!

ついに
オープン

おかえりキッチン大解剖

ほくほかな
ごはん

会計報告

ACCOUNTING REPORT

活動計算書（10期:2020年4月1日～2021年3月31日）

（単位:円）

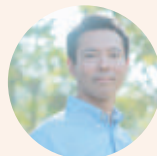
				9期	10期	前年度比		
経常収益	受取寄付金（サポーター会費含む）			28,889,386	60,800,449	210.46%	あたにかいお気持ちを多く寄せていただき、10期は企業寄付が2700万、個人寄付も増加傾向にあり9期と比べて大幅な増収となりました。	
	受取助成金			0	4,700,000			
	受取補助金			4,535,035	3,937,360	86.82%	「新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金」様より助成をいただきました。相談業務の人件費や一時的な住まいの確保に充当いたしました。	
	事業収益	事業収益		25,315,693	48,255,510	190.62%		
		受託事業収益		11,764,034	9,679,894	82.28%		
		その他事業収益		0	0			
	事業収益 計			37,079,727	57,935,404	156.25%	HUBchari事業は前年度比202%増となり、組織基盤の安定化をはかると当事者への就労機会提供の機会を増やすことができました。	
	その他収益	受取利息・雑収益		39,995	6,314	15.79%		
経常収益 計				70,544,143	127,379,527	180.57%		
経常費用	事業費	1. 人件費		21,264,056	28,640,199	134.69%	多くの個人・企業の皆様からの物品寄付のおかげで前年度より費用を抑えることができました。	
		2. その他経費	業務委託費	2,203,599	1,586,018	71.97%		アンドセンターの利用率が高く、前年度より費用がかかりました。
			旅費交通費	690,661	901,615	130.54%		
			消耗品費	3,024,453	2,618,690	86.58%	10期は新たにHUBchariトラック用の駐車場の契約を行いました。	
			水道光熱費	1,464,647	1,625,869	111.01%		
			地代家賃	7,630,000	8,685,800	113.84%	施設のセキュリティを強化するため電子錠などの導入を行い、安全快適に施設を使えるよう修繕を行いました。	
			修繕費	1,767,616	1,150,600	65.09%		
			減価償却費	816,750	2,311,805	283.05%	HUBchariの再配置用のトラックの購入などにより、償却費が多くなりました。	
			その他	5,007,136	7,655,722	152.90%		
	その他経費 計			22,604,862	26,536,119	117.39%		
	管理費	1. 人件費		1,477,367	2,330,718	157.76%		
		2. その他経費		2,261,004	2,342,640	103.61%		
	経常費用 計				47,607,289	59,849,676	125.72%	
	経常外収益				0	73,014		アンドセンター横にカフェ「おかえりキッチン」をオープンしました。新しい事業開始に伴う新規採用者の人件費に充当します。また、このうち5,000万円をアンドセンターの施設維持管理のために「施設整備積立特定資産」を投資その他の資産に計上しています。
経常外費用				9,206,352	210,000	2.28%		
法人税、住民税及び事業税				186,000	3,245,200	1744.73%		
当期正味財産増減額				13,544,502	64,147,665	473.60%		
前期繰越正味財産額				67,744,611	81,289,113	119.99%		
次期繰越正味財産額				81,289,113	145,436,778	178.91%		

総会で承認を受けた財務諸表を一部金額をまとめて表示しています。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、特定非営利活動法人Homedoorの収支を正しく示していることを認めます。



顧問税理士
准認定ファンドレイザー
中山 麻衣子



Homedoor監事
杉浦 元



会計ボランティア
亀井さん

わたしも
サポートしています

団体概要

ABOUT US

- 設立** 2010年4月
（2011年10月NPO法人格取得、2017年1月認定NPO法人に認定）
- ビジョン** ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる
- スタッフ** 事務局スタッフ 10名（2021年7月時点・内2名が役員を兼任）
おかえりキッチンスタッフ 7名
ボランティア登録者 1561名
相談ボランティア 28名
- 役員** 理事長/川口 加奈
理事/松本 浩美（事務局長と兼任）
理事/竹原 啓二（株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長）
理事/岩田 真吾（三星テキスタイルグループ 代表取締役社長）
監事/杉浦 元（株式会社エリオス 代表取締役社長）



組織の経営戦略を考える役員



実務面を支えるスタッフ

書籍を出版しました！

PUBLISHED A BOOK

理事長・川口の初著となる本が2020年9月に発売となりました。川口がホームレス問題と出会うきっかけとなる14歳の出来事から、19歳でHomedoorを立ち上げるに至った経緯、そして、事業の立ち上げに苦しみながらも10年間やり続けてきた過程が描かれています。発売から1年近くが経ち、タイトルの影響からか中高生の読者も多く、手書きの手紙が届くこともあり、嬉しい反応をたくさんいただいています。ぜひお手に取ってご覧ください！

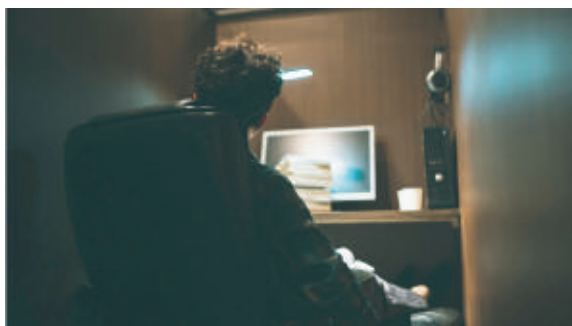
14歳で“おっちゃん”と出会ってから、15年考えつづけてやっと見つけた「働く意味」
価格:1,760円（税込） 出版社:ダイヤモンド社

ご購入はこちら
（amazon）



NEXT CHALLENGE

—— 新たに取り組む、次なる挑戦 ——



インターネット検索経由での相談者が増えるようになり、野宿をしていない人からの連絡が年々増加傾向にあります。失業や病気、家族との関係性など様々な理由が重なり、生活困窮に陥った人たちが「ここなら相談できるかも」と連絡をくれますが、用意できる選択肢が十分とは言い切れないのが現状です。見ず知らずの人に自分の複雑な身の上を相談をするということはとても勇気のいることです。ひとりひとりの気持ちにいていねいに寄り添いながら、新たな選択肢をつくっていく必要があります。

今後の取り組みテーマ

多様化する相談者にも対応できる
充実した支援メニューをどのようにつくっていくか



1



複数人での相談に対応 -ファミリーシェルターの設置を目指して-

2019 年ごろから単身ではない人からの相談が散見されるようになりました。親子、きょうだい、夫婦、カップルなど複数人で来所相談されるケースが増え、個室シェルターのアンドセンターでは残念ながら受け入れが難しいこともありました。「誰もが何度でもやり直せる社会」を目指すなかで、多様化する相談を受け入れる体制づくりを強化していく必要性を感じ、ファミリーシェルターの設置を検討中です。住居に不安を抱く人が安心して寝泊りできるよう、少しずつ歩みを進めてまいります。

2



「おかえりキッチン」の持続的運営 -長期的な関わりを持てる環境づくり-

2021 年 6 月にオープンしたカフェ「おかえりキッチン」には、無料でご飯を食べられるおかえりチケットを渡し、相談者が再び困窮することを防ぐ「再来所促進」の機能があります。相談者の中には「一度相談したから、二度目は行きづらい」と話す人もいます。生活相談に至るには複数の課題がある人がほとんどのため、その解決は簡単ではありません。長期的な関わりを持てる環境づくりを目指しながら、安定的なカフェの運営を行っています。

ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造を作るために 寄付で私たちのチャレンジを応援してください！



3,000円で

専門相談員によるカウンセリングを
一人に提供できます。



5,000円で

アンドセンターで一人が
一晩ゆっくり休むことができます。



10,000円で

新居に移られる一人に
新生活応援キットをプレゼントできます。

サポーター会員になる(継続寄付)

1日30円から継続的にサポートできます。

サポーター会員のみなさまには会員カードなどのサポーターセットをお送りします。

クレジットカード決済で

ウェブサイト(www.homedoor.org/besupporters)
から簡単にお手続きできます。



口座振替で

お電話かメールを頂ければ、
口座振替申込書をお送りします。

06-6147-7018

info@homedoor.org

好きな額で寄付をする(単発寄付)

ご都合の良い時に、ご自由な金額・回数でご寄付いただけます。

ポイントなどお金以外の方法での寄付もできます。

クレジットカード決済で

ウェブサイト(www.homedoor.org/donatedetail)
から簡単にお手続きできます。



銀行振込で

下記口座にお振込ください。銀行振込の特性上、用途を確認できない
ため、お手数ですがフォーム(www.homedoor.org/donatedetail)より
ご連絡ください。

三井住友銀行 梅田支店(127)

普通 8928985

トクティヒエイリカツドウハウジン

ホームドア



Tポイント、本、電力でも 寄付ができます！

Tポイント、本、電力でも寄付ができます。余っている
Tポイントや読まなくなった本、利用する電力を変
えるなど様々な方法での寄付ができます。
まずはぜひウェブサイトをご覧ください。



Homedoorへの寄付には税制優遇があります！

認定NPO法人への寄付には税控除の対象になります。

確定申告で、寄付額の約40%が所得税と住民税から控除されます。

例) 年間30,000円の寄付をした場合、
12,320円が控除となります。

所得税: (30,000円 - 2,000円) × 40% = 11,200円

住民税: (30,000円 - 2,000円) × 4% = 1,120円



ボランティアでの応援も大歓迎です！

ウェブサイト(www.homedoor.org/volunteer)から

ボランティア登録をすると、毎月25日頃にボランティア情報が届きます。



ボランティア
新出さん



これからの10年を 寄付で応援してください！

Homedoorを設立した19歳の時、「大学生には無理だ」「どう
せ続かない」とさまざまな事を言われました。ただ、私の中にあった
のは、「ニーズがあるなら続けるだけ。なければ続かない。」という
思いでした。

それから10年。今では、誰も来ない日がないというくらい、毎日
誰かがHomedoorの扉を開きます。そして非常にありがたいことに、
多くの方にご支援いただき、活動を存続することができました。

これからの10年もやりたいこと、やるべきことがまだまだたくさん
あります(詳細は4ページ)。コロナの影響で需要も高まる困窮者
支援において、力を発揮できるよう、
精一杯頑張っています。

認定NPO法人Homedoor理事長

川口 加奈





ホームレス状態を生み出さない日本に

認定NPO法人Homedoor ANNUAL REPORT 2020
(2020年度年次報告書)

531-0074 大阪市北区本庄東1-9-14
tel. 06-6147-7018 / info@homedoor.org